

I. 教育

①教養教育の共同実施、コンソーシアムを通じた単位互換

②共同教育課程、連合大学院

③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー

④産業界と連携したリカレント教育の推進

⑤自治体・産業界と連携したインターンシップの推進

⑥その他、教育に関する複数大学等の連携・協働による取組

大 学 名		山形大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		ドイツ・ハノーヴァー大学とのダブル・ディグリー・プログラムに関する協定
取 組 概 要	概要・目的	山形大学とドイツ・ハノーヴァー大学は、ダブル・ディグリー・プログラムに関する協定を、2018年9月に締結した。山形大学大学院農学研究科とドイツ・ハノーヴァー大学自然科学部にそれぞれ最低限2学期在籍し、ダブル・ディグリー・プログラムの修了要件を満たした学生には、修士（農学）とMaster of Scienceの両方の学位が授与されます。ダブル・ディグリー・プログラム名は” Management of Land and Water Resources” で、2019年10月から学生の受入を開始します。
	始 期	2018年9月
	終 期	
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	ハノーヴァー大学（ドイツ）
	成 果	【今後の活動予定】2019年10月から、両大学から毎年最大2名ずつを受け入れる。また、プログラムの実施にあたっては、英語を公式言語とする。山形大学農学部ではロペス・ラリー教授が、ハノーヴァー大学自然科学部ではジェラルド・クント教授がコーディネーターとなり、ダブル・ディグリー・プログラムを実施する。
その他特記事項	参考URL（山形大学ホームページ）： https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/3415/3863/0103/press20181004.pdf	

大 学 名		東京医科歯科大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		①東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻 ②東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻
取 組 概 要	概要・目的	東京医科歯科大学は、教育理念の一つである「国際性豊かな医療人の育成」を推進するとともに、国際競争力を強化するため、本学と長年の交流実績があるチュラロンコーン大学（タイ）及びチリ大学（チリ）との2つのジョイント・ディグリー・プログラムを開設した。 東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻では「博士（歯学）」の学位記が両大学の連名で発行され、東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻では「博士（医学）」の学位記が両大学の連名で発行される。
	始 期	①2016年8月1日 ②2016年4月1日
	終 期	
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	①タイ国チュラロンコーン大学歯学部 ②チリ国チリ大学医学部
	成 果	①歯学分野、特に歯科矯正学において日本・タイ国のみならず広く東南アジア等で同分野の優れた知識、技術を有し国際的リーダーになりうる研究心旺盛な高度専門医療人の養成が見込まれる。 ②上部消化管外科学、大腸肛門外科学、胃腸病内科学の3 領域における臨床的に専門性の高い経験・技能を有する高度専門的職業人であると同時に医学研究にも造詣が深く、かつグローバルな視点から医療・研究を捉えることができるリーダーの育成が見込まれる。
	その他特記事項	本学HPにおける両JDPの紹介： (日本語版) http://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate_school/jd_hp/index.html (英語版) http://www.tmd.ac.jp/english/faculties/graduate_school/jointdegree/joint_degree.html

大 学 名		東京学芸大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		東アジア教員養成国際大学院プログラム<キャンパス・アジア事業>： 北京師範大学及びソウル教育大学との大学院修士課程におけるダブル ディグリー・プログラム
取 組 概 要	概要・目的	2016年度に文部科学省から採択を受けたキャンパス・アジア事業の連 携大学である北京師範大学及びソウル教育大学と修士課程レベルのダブル ディグリー・プログラム開発を進めており、それぞれの大学と2018年 度中の学生募集開始、2019年度中の相互派遣開始を目指している。 参加組織は、本学が大学院教育学研究科、北京師範大学が外国語文学 学院、ソウル教育大学が教育専門大学院を予定している。
	始 期	2018年度
	終 期	
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	北京師範大学（中国） ソウル教育大学（韓国）
	成 果	東アジア教員養成国際大学院プログラムにおいては、2018年度から本 学・北京師範大学・ソウル教育大学が、それぞれの大学の特色を活かし た「キャンパス・アジア共通科目」を指定し、各大学院修士課程の交換 留学生が相互に履修する仕組みを整えている。また、2018年4月には、 修士課程における学修量と単位数の関係等を定めた「単位互換に関する 覚書」を3大学間で締結している。 これらの取組に基づき、修士課程のダブルディグリー・プログラムを 構築し、世界で活躍できる高度な力量を備えた学校教員等の養成に向け た質の高い教育を提供する。
その他特記事項	http://tguca.u-gakugei.ac.jp/	

大 学 名		東京工業大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		東京工業大学・清華大学 大学院合同プログラム
取 組 概 要	概要・目的	東京工業大学と清華大学（中華人民共和国）が共同で大学院の学生教育を行い、日本語、中国語及び英語の素養を持ち、日中双方の文化・習慣に通暁した優れた理工系の人材を養成し、両国の科学技術及び産業経済の発展に資することを目的とする。 本プログラムの選抜に合格した学生は、東京工業大学及び清華大学に修士課程学生として在籍し、日中両大学の指導教員の指導の下、両大学からそれぞれ修士の学位を修得する。
	始 期	2004年
	終 期	
	関係機関 （大学・自治体・企業等）	清華大学 なお、本プログラムを支援している企業等は次のURLを参照のこと。 http://www.ipos.titech.ac.jp/tsinghua/program/support-list.html
	成 果	本プログラムにより日本から派遣する学生については、2005年8月から開始し、また中国からの学生の受入は2006年3月から開始した。 なお、東京工業大学及び清華大学の双方で学位を取得した学生の累計は、2018年10月現在の時点で、158名となっている。
その他特記事項	本学HP http://www.ipos.titech.ac.jp/tsinghua/	

大 学 名		東京海洋大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加可
取組（事業・制度等）名称		大学の世界展開力強化事業A-② キャンパス・アジア（CA）事業の推進「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム
取 組 概 要	概要・目的	海洋の持続的開発と利用に関わる分野において、相互理解を深める学生の双方向教育と問題解決の高度な専門能力を付与するための大学院レベルでの質的保証を伴った日中韓大学交流の実現を目指すものであり、ボローニャ・プロセスに準拠した日中韓における単位互換制度（「日中韓版エラスムス」）を構築して質保証を達成し、国際的な高度専門職業人を養成する。このような日中韓の協働教育を行うことで、日中韓の海洋分野における高等教育機関としての世界的なプレゼンスを高める。そのために、上海海洋大学（中国）、韓国海洋大学校（韓国）及び本学が中核となるコンソーシアムを構成し、ショートタームプログラム、国際協働教育プログラム、ダブルディグリープログラムを単位互換制度に基づき実施している。
	始 期	平成29年9月～受入れ、派遣を開始
	終 期	未定
	関係機関 （大学・自治体・企業等）	中国：上海海洋大学（SHOU） 韓国：韓国海洋大学校（KMOU）
	成 果	本事業のダブルディグリープログラムにより、平成29年10月～平成30年9月に3名（SHOU2名、KMOU1名）の学生を受け入れた。平成30年4月から新たに2名（SHOU2名）の留学生を本学に受入れた。また、平成30年4月から本学の博士前期課程の学生1名をKMOUへ派遣した。これらの学生のうち、ダブルディグリーを修了する学生が来年度輩出される予定である。
	その他特記事項	WEBサイト： https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/oqeanous/program/ddp.html

大 学 名		一橋大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		国外の教育研究ネットワークの拡充
取 組 概 要	概要・目的	カリキュラムの国際的な通用性を高めるとともに、学生に一層多様な学修の機会を提供するため、世界水準の教育と研究を行っている海外の大学と学生交流協定を締結して教育研究ネットワークを拡充する。
	始 期	平成23年度
	終 期	
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	北京大学光華管理学院、ソウル大学経営専門大学院、中国人民大学商学院・法学院、イェール大学スクール・オブ・マネジメント、インド経営大学院バンガロール校、国立台湾大学法律学院、ルーヴェン・カトリック大学
	成 果	<p>経営管理研究科（旧国際企業戦略研究科）では、北京大学光華管理学院及びソウル大学経営専門大学院との3大学間で2011年に締結した「BESTビジネス・スクール提携協定」の一環として、北京大学光華管理学院とは2012年に、ソウル大学経営専門大学院とは2013年にダブルディグリー・MBAプログラムの覚書を追加締結した。また、2016年には中国人民大学商学院と、2017年にはイェール大学スクール・オブ・マネジメント、2018年にはインド経営大学院バンガロール校とそれぞれダブルディグリー・MBAプログラム協定を締結した。</p> <p>法学研究科では、2017年に中国人民大学法学院及び国立台湾大学法律学院とそれぞれ修士ダブルディグリー・プログラム協定を締結した。国際・公共政策大学院と法学研究科では、2018年にベルギーのルーヴェン・カトリック大学と修士ダブルディグリー・プログラム協定を締結した。</p>
その他特記事項	http://www.hit-u.ac.jp/function/outside/news/2011/0112_2.html http://www.law.hit-u.ac.jp/information/2017/20170611.html http://www.law.hit-u.ac.jp/graduate/dd/about.html	

大 学 名		横浜国立大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		パドヴァ大学との大学間協定によるダブルディグリーの実施
取 組 概 要	概要・目的	パドヴァ大学とは平成29年に大学間協定を締結していたが、ヨーロッパを中心に理工学系の修士・博士レベルでのダブルディグリーを推進するT. I. M. E. Associationに本学が平成30年2月に正式加盟したことを受け、平成30年9月にダブルディグリー協定を締結し、実施に至った。
	始 期	平成29年
	終 期	
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	イタリア・パドヴァ大学
	成 果	平成30年9月より理工学府博士課程前期1年生1名を2年間派遣。
その他特記事項		

大 学 名		山梨大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		大学院医工農学総合教育部修士課程工学専攻におけるデュアルディグリーに関する大学間協定を締結した大学院協定交流学生の受け入れ
取 組 概 要	概要・目的	①中国 西南交通大学 ②中国 杭州電子科技大学 本学大学院医工農学総合教育部修士課程工学専攻の、①土木環境工学コース、②コンピュータ理工学コースに大学院協定交流学生を正規生として受け入れ、所定の単位を修得のうえ学位論文を両大学に提出し審査に合格することで、それぞれの大学から修士の学位が授与されるものである。
	始 期	①2016年10月 ②2018年9月
	終 期	①2021年09月 ②2025年03月
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	①中国 西南交通大学 ②中国 杭州電子科技大学
	成 果	①中国 西南交通大学について、2016年10月3名、2017年10月3名、2018年10月（予定）3名の大学院協定交流学生を受け入れ、2018年09月には2名の学生に修士（工学）の学位を授与する予定である。 ②中国 杭州電子科技大学について、2019年10月に本学に受け入れる予定の対象学生が2018年10月に杭州電子科技大学に入学することとなっている。
その他特記事項		

大 学 名		北陸先端科学技術大学院大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		インド工科大学ガンディナガール校との協働教育（ダブルディグリー）プログラム
取 組 概 要	概要・目的	マテリアルサイエンス分野において、北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）とインド工科大学ガンディナガール校（IITGN）が相互に学生を派遣し、両校の教員による協働研究指導の実施等により、各大学の修了要件を満たした者に対し、JAISTとIITGNの双方から修士の学位を授与する。
	始 期	2018年4月
	終 期	2022年8月
	関係機関 （大学・自治体・企業等）	北陸先端科学技術大学院大学 インド工科大学ガンディナガール校
	成 果	2018年4月よりプログラムへの学生受入を開始し、JAISTを本籍大学とする1期生が8月からIITGNでの修学を開始した。また、IITGNを本籍大学とする1期生について、2019年7月よりJAISTでの修学を開始予定である。
その他特記事項		http://www.jaist.ac.jp/reinvent_JAISTIndia/ddp/

大 学 名		名古屋大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		ジョイント・ディグリープログラムの拡大
取 組 概 要	概要・目的	<p>本学において、NU-MIRAI2020で掲げる「名古屋大学を世界屈指の研究大学に」を達成するためには、優秀な外国人留学生の戦略的な受入れを推進するとともに、意欲と能力のある学生の外国留学を促進することが不可欠である。そのために、ジョイント・ディグリープログラムを設置することにより、学生は本プログラムを通じて世界を知り、大学としては連携する大学の教育体系や先進的な取組を取り入れ、国際的な高等教育機関へと発展することを目指す。</p>
	始 期	平成27年度（国内初）
	終 期	
	関係機関 （大学・自治体・企業等）	<ul style="list-style-type: none"> ・アデレード大学 ・エディンバラ大学 ・ルンド大学 ・カサセート大学 ・フライブルク大学 ・西オーストラリア大学（申請中）
	成 果	<p>平成30年10月現在で3研究科に5つの国際連携専攻を設置し、国内最多のジョイント・ディグリープログラムを実施している。</p>
	その他特記事項	<p>ジョイント・ディグリープログラムホームページ http://tgu.nagoya-u.ac.jp/joint/</p>

大学名		名古屋工業大学
分類	大分類	教育
	小分類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組(事業・制度等)名称		名古屋工業大学・ウーロンゴン大学国際連携情報学専攻(博士後期課程)
取組概要	概要・目的	<p>【概要】 中京地域産業界からの社会的要請を踏まえた、「情報科学分野を通じたエネルギー、ヘルスケア等の産業分野におけるイノベーション創出」を実現するため、本学大学院工学研究科に「名古屋工業大学・ウーロンゴン大学国際連携情報学専攻」を設置した。両大学から1名ずつの指導教員を配置し、2名の指導教員が連携し、学生が作成する研究計画の内容に鑑み、学生一人ひとりの研究の独自性や研究進捗状況に応じた指導計画を作成し研究指導を行う。標準修業年限は3年間であり、在学期間中の1年間(2年次の1年間)は連携大学に滞在して研究を行う。</p> <p>【目的】 情報学分野における高度な専門性と研究遂行能力、そして異なる文化や多様な価値を理解できる国際感覚を備え、幅広い視野から国際社会が直面する諸課題を発見し、その課題に対する創造的・独創的な解決策を提案できる人材を養成する。</p> <p>具体的には、超スマート社会の実現や第4次産業革命への貢献を見据え、情報学分野において世界をリードし新規研究分野を開拓できる研究者、国際的な展開を行うIT関連企業を始めとするグローバル企業において新規事業の開拓を先導するグローバルリーダーとしての実践的研究者・技術者を養成する。</p>
	始期	平成30年3月
	終期	
	関係機関(大学・自治体・企業等)	ウーロンゴン大学
	成果	在籍実績 平成30年4月入学1名 ・本専攻では、情報学分野における両大学の強みを総合し、学生に高度な学修機会を提供することで、情報学分野において世界をリードし新規研究分野を開拓できる研究者、国際的な展開を行うIT関連企業を始めとするグローバル企業において新規事業の開拓を先導するグローバルリーダーとしての実践的研究者・技術者を養成する。
その他特記事項	<p>https://www.nitech.ac.jp/news/news/2017/5827.html#h3_00</p> <p>名古屋工業大学・ウーロンゴン大学国際連携情報学専攻(平成30年3月設置) Nagoya Institute of Technology and University of Wollongong Joint Degree Doctoral Program in Informatics</p> <p>設置の趣旨・必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○名古屋工業大学及びウーロンゴン大学は、人工知能、マルチエージェントシステムを中心に情報学分野において両大学で連携し、長年にわたり国際的に教育研究活動を展開 ○第4期科学技術基本計画に掲げられる「超スマート社会」を実現し、また中京地域産業界において「第4次産業革命」による成長を実現するためには、人工知能やIoT等の情報学分野での研究の進展、世界を牽引できるトップレベルの情報系人材の育成が必要不可欠 <p>ジョイント・ディグリープログラムによる国際連携専攻を設置することにより、情報学分野における両大学の強みを総合し、互いの特徴を活かした相互補完的な教育・研究を可能とし、学生に単独の大学では得られない高度な学修機会を提供</p> <p>両大学共通の強み 人工知能等</p> <p>名古屋工業大学の強み データサイエンス等</p> <p>ウーロンゴン大学の強み セキュリティ等</p> <p>養成する人材像</p> <p>「超スマート社会」の実現や、第4次産業革命への貢献を見据え、情報学分野において世界をリードし新規研究分野を開拓できる研究者、国際的な展開を行うIT関連企業を始めとするグローバル企業において新規事業の開拓を先導するグローバルリーダーとしての実践的研究者・技術者を養成する。養成する人材の修得すべき能力(ディプロマ・ポリシー)は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国際社会の課題を技術的側面から理解し、産業界の将来像を展望できる能力 ②情報学分野での深い専門知識と超スマート社会実現に向けた技術に関する幅広い関心・洞察力 ③高い独創性と強い研究推進能力によってイノベーションを牽引する能力 <p>国際連携情報学専攻(D)(入学定員:2名(各大学1名))</p> <p>【教育課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際連携情報学専攻の標準修業年限は3年間。在学期間中の1年間(2年次の1年間)は連携大学に滞在 ・1年次:入学手続を行った大学にて研究を進め、専門的知識を学ぶことで専門的洞察力を深める。 ・2年次:連携大学の指導教員の指導の下で連携大学の強みとする分野を精究し、異文化との出会いを通じて国際的視野を深める。 ・3年次:研究成果をまとめ博士論文を完成させる。 ・1年次終了までに「最終研究計画審査」、2年次終了までに「研究中間報告審査」を実施し、学生の能力達成度、研究進捗状況を評価 <p>【研究指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋工業大学とウーロンゴン大学から1名ずつの指導教員を配置 ・連絡会議システム等を利用して2大学の指導教員が学生の研究進捗を把握して共同で指導し、ルーブリックによって能力達成度を確認 ・研究指導等において使用する言語は「英語」 	

大 学 名		豊橋技術科学大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加可
取組（事業・制度等）名称		ダブルディグリープログラム
取 組 概 要	概要・目的	グローバル人材育成のため、豊橋技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程に入学と同時にシュトゥットガルト大学（大学院修士課程）に入学し、それぞれの大学にて1年以上の教育・研究指導を受けた者のうち、修了要件を満たした者に、両大学院の学位を取得させるプログラム。（東フィンランド大学も同様）
	始 期	H25. 9月（シュトゥットガルト大学），H30. 1月（東フィンランド大学）
	終 期	H33. 9月（シュトゥットガルト大学），H33. 1月（東フィンランド大学）
	関係機関 （大学・自治体・企業等）	シュトゥットガルト大学（ドイツ），東フィンランド大学（フィンランド）
	成 果	<p><シュトゥットガルト大学> H26年度受入2名，H27年度派遣2名・受入2名，H28年度派遣2名</p> <p><東フィンランド大学> H30. 1月にプログラムの協定を締結したが，先行して，フィンランドでの実務訓練受入企業の開拓を行うマッチングコーディネーターとして，クロスアポイントメント制度により東フィンランド大学教授をH29. 10月より雇用開始した。</p>
その他特記事項		海外の大学等との連携教育プログラム一覧

大 学 名		京都工芸繊維大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻
取 組 概 要	概要・目的	建築学分野における専門的知識・技術を熟知し、他分野との緊密な連携により、世界をリードするデザインマインド及び研究心を持った国際的な建築家・技術者・研究者、そして新しい時代を開拓するオピニオンリーダーの養成を目的として、チェンマイ大学（タイ）と連携し、ジョイント・ディグリープログラムである京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻を設置している。
	始 期	平成29年度
	終 期	
	関係機関 （大学・自治体・企業等）	チェンマイ大学（タイ）
	成 果	平成28年度に設置認可を受け、平成29年から学生受け入れを開始し定員を充足している。平成31年3月末に第1期生となる学生が終了する予定である。 タイにおけるプログラムの広報に注力したことにより、国外におけるプログラムの認知度も高まっている。
その他特記事項	京都工芸繊維大学HP https://www.kit.ac.jp/edu_index/sg-science-and-technology-color/g-architecture_jd/	

大 学 名		大阪大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加可
取組（事業・制度等）名称		ダブル・ディグリー・プログラム
取 組 概 要	概要・目的	ダブル・ディグリー・プログラム協定等に基づき、同時期に大阪大学と外国の協定校に在籍し、両大学で実施する連携した教育プログラムを学修したうえで、それぞれの大学から学位が授与される。
	始 期	平成25年度
	終 期	継続中
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	グローニンゲン大学（オランダ）、北京大学（中国）他、下記HPに掲載のとおり http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/announcement/main/Double_Degree_Program
	成 果	平成30年8月1日までの交流実績 協定締結数：29 入学者数：派遣学生6名、受入学生27名 学位授与者数：派遣学生1名、受入学生19名
その他特記事項	本学の様々な国際化の取り組みを全学的に支援する「アジア人材育成のための領域横断国際研究教育拠点形成事業」を平成26年に設置し、ダブル・ディグリー・プログラム協定締結をサポートしている。 http://caren.eng.osaka-u.ac.jp/caren-jp/	

大 学 名		兵庫教育大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		ダブルディグリープログラム（大学院）
取 組 概 要	概要・目的	本プログラムは、協定大学との強固な大学間ネットワークのもと、教員養成の分野における教育研究を国際的にリードする人材を養成することを目的としています。具体的には、大学間の緊密な連携によって研究指導体制と質保証の仕組みを整え、単位互換等を活用して履修期間の短縮を図り、3年間で本学と協定大学の双方の大学院における学位を授与するプログラムです。
	始 期	入学月（4月又は10月）
	終 期	
	関係機関 （大学・自治体・企業等）	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫教育大学 ・大邱教育大学校（韓国） ・京仁教育大学校（韓国） ・屏東大学（台湾） ・台北教育大学（台湾） ・高雄師範大学（台湾）
	成 果	<p>2012年に開設した本プログラムの協定校は、当初の3大学から5大学に拡大され、これまで派遣1人、受入れ3人の学生が本プログラムを修了しています。</p> <p>本プログラムの実施を通して、本学の国際化対応に向けた国際感覚の醸成と広い視野を持った人材の養成がなされ、また、協定校相互の関係強化や協定校の拡大、学術交流の活性化などを通して、教育の発展に広く貢献できる人材の養成を行うことが可能となっています。</p>
その他特記事項		https://www.hyogo-u.ac.jp/admission/master/double_degree_programphp.php

大学名		奈良先端科学技術大学院大学
分類	大分類	教育
	小分類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		博士後期課程におけるダブル・ディグリー・プログラムの実施
取組概要	概要・目的	海外の学術交流協定校との学生交流の取組を発展させ、留学生のさらなる獲得及び本学学生が海外の大学院教育を受ける機会の拡充のため、博士後期課程におけるダブル・ディグリー・プログラムを実施している。 平成30年9月1日現在、6つの大学との間でプログラムを実施中である。
	始期	平成22年8月（学生受入は平成24年4月）
	終期	
	関係機関 （大学・自治体・企業等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ポールサバチエ大学（フランス） ・マラヤ大学（マレーシア） ・ユニテック工科大学（ニュージーランド） ・国立交通大学（台湾） ・ウルム大学（ドイツ） ・パリサクレ大学（フランス）
	成果	<p>ダブル・ディグリー・プログラムには、これまで海外協定校の学生6名（受入）及び本学学生3名（派遣）が参加し、海外協定校の学生3名及び本学学生2名が本学の学位を取得した。</p> <p>ポールサバチエ大学とのダブル・ディグリー・プログラムを修了した本学学生2名は、平成30年3月の学位記授与式において最優秀学生賞に選ばれるなど、取組の成果が上がっている。</p>
その他特記事項		

大 学 名		長崎大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		国際連携専攻の設置（ジョイントディグリー） 長崎大学-ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院国際連携グローバルヘルス専攻
取 組 概 要	概要・目的	<p>グローバルヘルス分野において世界トップレベルに位置する、ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（LSHTM）との強い連携により、共同の教育カリキュラムを展開する国際連携専攻（ジョイントディグリー）を設置した。</p> <p>本専攻の目的は、地球規模で生じている健康課題を現場レベルで深く理解し、その解決に向けて技術や理論を構築できる教育・研究能力を有するとともに、学術的知見をグローバルな政策立案・実行等に結び付ける能力を兼ね備え、日英の学術的連携の強化に資する実践的・社会的リーダーを養成することとしている。</p> <p>長崎大学及びLSHTMの教員が共同で実施する国際共同プロジェクトに学生が直接参画する中で教育研究指導を受けることとなっており、世界トップレベルの研究を直に経験すると共に、多国籍な研究チームにおけるリーダーシップ及びフォロアーシップを修得することが可能となる。</p>
	始 期	平成30年4月
	終 期	
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	長崎大学・ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（London School of Hygiene and Tropical Medicine）
	成 果	<p>ジョイントディグリー（PhD）の創設によるメリットとして、まず、より優秀な学生の入学が期待される。実際、平成30年3月に実施した入学試験には定員の2倍以上の出願があり、既に国際舞台等で活躍している極めて優秀な学生5名を選抜した。さらに、本国際専攻と連動するTMGH修士課程へ入学する学生の確保にもつながっており、修士コースを対象とした進学説明会等においても、将来的な博士進学（ジョイントディグリーの取得）を目的とした参加者が増加しており、本研究科の志願倍率増加のみでなく、我が国の博士離れにも貢献できると考える。</p> <p>また、優秀な学生が博士レベルで両大学による国際共同研究に参加することで、より大きな研究成果と教育効果が期待され、そこから新たなプロジェクトを開拓するチャンスが広がり、大型の外部資金等の獲得にも繋がると考えている。</p> <p>以上から、両校・両国の研究文化を熟知する日英のグローバルリーダーが養成され、日英が共同してグローバルヘルスを推進するうえで相乗効果を生み出し、長崎大学のグローバルヘルスへの貢献度が飛躍的に増すことが期待される。</p>
	その他特記事項	http://www.tmgh.nagasaki-u.ac.jp/?lang=ja

大 学 名		熊本大学
分 類	大 分 類	教育
	小 分 類	③国内外の大学間のジョイントディグリー・ダブルディグリー
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		海外交流協定校とのダブルディグリープログラム
取 組 概 要	概要・目的	高度な専門知見・技能と国際的視野を有する高度専門職業人を養成するため、海外交流協定校との間でダブルディグリープログラムを締結している。 一連のカリキュラムを修了すると、両大学から学位を取得できる。
	始 期	(各プログラムにより異なる。 最初のダブルディグリープログラムの始期はH20年9月)
	終 期	
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	以下の各大学とそれぞれダブルディグリープログラムを締結している。 <ul style="list-style-type: none"> ・スラバヤ工科大学大学院（インドネシア） ・南台科技大学工学院（台湾） ・デ・ラ・サール大学工学部（フィリピン） ・国立高雄第一科技大学工学院、電機資訊学院（台湾） ・AGH科学技術大学物質科学部（ポーランド） ・培材大学校一般大学院（韓国） ・バンドン工科大学大学院（インドネシア） ・ボルドー大学科学技術学部（フランス） ・ブレーズパスカル大学（フランス） ・ロレーヌ大学（フランス） ・マヒドン大学医学部（タイ） ・コンケン大学医学部（タイ）
	成 果	博士前期課程・博士後期課程合わせて16コースのダブルディグリープログラムにより、多彩な教育プログラムの提供が可能となり、学生のモビリティを向上させる環境が充実している。
	その他特記事項	ダブルディグリープログラム締結校（熊本大学HPより） https://www.kumamoto-u.ac.jp/kokusaikouryu/kokusaikouryuudata/doubledegree